



▲保母さんたちのショーや花火など興奮の一夜が明けて、寝起きから元気な園児たち。



▲サラダづくりに励む園児たち。おまごではなく、本物の包丁を使っているのだ。



(96/11月号)

「宿泊保育」

愛知県豊橋市 中島章裕さん (35歳)

STORY

愛知県の明照保育園で行われるイベント「宿泊保育」。一晩、保育園に泊り込んで、サラダを作ったり、花火をしたりして楽しむ園児たちと、それを支える保母さんたちの奮闘記。

読者のみなさんからお寄せいただいた衝撃作、問題作、ユニークな作品をドドッと紹介する誌上上映会のはじまり、はじまり。

(96/6月号)

「卒園式」

愛知県豊橋市 中島章裕さん(34歳)

STORY

ビデオを使った保育園だより「げんきっ子ビデオ」を年3回、年齢別に作成し、園児の親御さんに無料貸出ししているという明照保育園。通常はできる限り編集をしないようにしている、とのことだが、年長児の最後のビデオだけは卒園式とともに6年間の思い出を編集してある。卒園式の模様を中心に数々のエピソードを交えた成長記録。



園児たちの様子を記録し親御さんに無料貸出し 明照保育園のビデオ活動



▲保母さんたちとお別れのシーン。涙ぐみず、どこまでも元気な子、とさまざま。



▲卒園式では園児たちよりもむしろお母さんの方の方が涙ぐむ。わか子の成長に感慨…かな。



▲園長先生が卒園証書を読み上げた途端、思わず両手が上がってしまった園児。わかる、わかる、その気持ち。◎もそういう子供でした。



▲挿入カットの入園式の様子。卒園にあたって彼らもお兄さん、お姉さんになりました。



▲思い出のシーンがボンと挿入される。元気で表情豊かな園児たち。撮り甲斐がありそう。

保育園だよりとして親御さんに貸し出されているという「げんきっ子ビデオ」。そのうちの年長児版の最後の作品がこれ。55分の本編を短く再編集してくれました。卒園証書を受け取るという同じ動作の中で、ちょっとぼんやりしてる子、カメラ目線を送る子、髪の毛を気にする女の子……とまあアクションに一人一人の個性が出ておかし。それに表情が豊かで、動きが激しい。スローモーション向きの被写体です。一つだけ気になったのはカメラアイが高いこと。保母さんと園児のお別れのシーンは園児たちの目線の高さで見たかったですね。園児(と先生)の飾らない笑顔がとても印象的な作品でした。

編集部発…読者の皆さまへ

編集部では現在、ビデオ作品の冒頭に入れるクレジットタイトルのコンテストを企画しています。クレジットには犬のマーキングにも似た(?)自己主張があり、皆さん工夫を凝らしていただい。でも目の目を見ることはほとんどないわけで、これを機会にご紹介できればと考えています。応募要領ほかは次号で。お楽しみに!



ビデオサロン

(97/7月号)



ビデオ

投稿ビデオ

ギャラリー

読者のみなさまからお寄せいただいた衝撃作、問題作、ユニークな作品をドドッと紹介する誌上上映会のはじまり、はじまり。

「おゆうぎ会」

愛知県豊橋市 中島章裕さん(35歳)

STORY

愛知県豊橋市の明照保育園では、園児の保護者に園内での様子を見てもらうため、年3回、年齢別に「げんきっ子ビデオ」を制作し、無料貸出しを行っている。今回の応募作は4、5歳児の「おゆうぎ会」が題材。本番前の準備に忙しい保母さんたちの様子や練習する園児たちの真剣な表情を交えてドキュメントタッチで構成している。



春のおゆうぎ会に向け 一生懸命練習する園児と それを支える保母さんの奮闘記



▲園児一人ひとりに本番用の化粧をする。皆神秘的な面持ちで、じっとしているのが可愛い。



▲作品は、おゆうぎ会用の衣装を探すシーンからスタート。保母さんたちは大忙しだ。



▲本番前にお化粧してもらった園児はグッと大人びた表情。いつもと違う自分の顔がうれしくて手鏡に見入る、女の子らしい一瞬をキャッチ。



▲いよいよ「おゆうぎ会」本番。衣装も本格的、照明も本格的。演技もバッチリ決まった。



▲浴衣で踊りの練習。着慣れない和服で動き方もごこちない園児に保母さんが手を添える。

編集部発…読者の皆さまへ

今月はゴールデンウィーク明けの作業だったせいか、集まった皆さんの作品も、休日を活用して練り上げられたものばかりで、見ごたえ充分でした。身近な素材や珍しい素材、長い間撮りたかったもの etc…。被写体は様々ですが、やはり撮りたいという熱意が画面に現れている作品は輝いています。

当コーナーの応募作品は10分以内という規定がありますが、よくぞこの時間内にまとめたという感じです。慌ただしい準備の様子から始めて、園児と保母さんたちの練習風景一本番まで切るのが惜しいようなシーンの連続で、ひじょうに楽しく見ることができました。特に練習中の園児が保母さんの動きについてこうと必死になっている姿が良かった。ここは親にとっては、たまらない感動のシーンでしょう。やはりこの作品が成功した大きな理由は、園児たちの「そのまま」を写していることに尽きます。園児は実に魅力的な被写体です。これからも活き活きた園内の様子を撮影し続けてください。